

## 産婦人科領域における NY-198 の臨床的検討

堀井高久・渡部 洋・野田起一郎

近畿大学医学部 産科婦人科学教室

産婦人科領域感染症 7 例に NY-198 を投与し有効性、安全性について検討を行なった。

その結果 7 例中 5 例が有効、2 例は無効と判定し、有効率は 71.4% であった。また、本剤に起因すると思われる副作用、臨床検査値異常は皆無であった。NY-198 は産婦人科領域における中等症までの感染症の治療および感染予防に有効な経口抗菌剤と考えられた。

NY-198 は北陸製薬研究所で新しく開発されたピリドンカルボン酸系合成抗菌剤で、キノロンカルボン酸を基本骨格にして 1 位にエチル基、6 位および 8 位にフッ素原子ならびに 7 位に 3-メチルピペラジノ基を化学構造に持っている。化学構造式を Fig. 1 に示す。本剤は殺菌的に作用し、*Escherichia coli*, *Staphylococcus aureus* をはじめ嫌気性菌を含むグラム陽性菌、グラム陰性菌に対して広い抗菌スペクトラムを有し、強力な抗菌活性を示す<sup>1)</sup>。

今回われわれは産婦人科領域感染症 7 例に本剤を投与し、その臨床効果、副作用の有無等について検討を行なったので報告する。

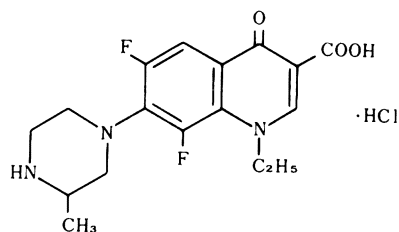


Fig. 1. Chemical structure of NY-198

## I 検討方法

検討対象の産婦人科領域感染症 7 例の内訳は、産褥子宮内膜炎 2 例、バルトリン膿瘍 2 例、骨盤死腔炎 2 例および陰断端膿瘍 1 例である。NY-198 の投与方法は 1 回 200mg で毎食後 1 日 3 回投与し、投与期間は 5 ~ 7 日間であった。

効果判定は、3 日以内に臨床症状の著しい改善をみ、治癒に至ったものを著効、3 日以内に臨床症状が改善の傾向を示し治癒に至ったものを有効、5 日以内に臨床症状が改善の傾向を示し治癒に至ったものをやや有効、そ

の他を無効とした。

## II 成績

検討症例の詳細を Table 1 に示す。症例 1, 2 はいずれも産褥子宮内膜炎で、発熱、膿性悪露を認めた。ドレナージを行なうとともに本剤を 5 日間投与した。症例 1 は解熱、赤沈値、白血球数、CRP 値の改善をみ、また、症例 2 は解熱を認め、両者共有効と判定した。なお、症例 1 は早産例、症例 2 は帝王切開例である。症例 3, 4 はいずれも右外陰部の有痛性腫瘤を認め、穿刺によりバルトリン膿瘍と判断し、本剤を 7 日間投与した。症例 3 は白血球数の正常化と外陰部腫瘤の縮小を認め有効と判定したが、症例 4 は 7 日間の投与にもかかわらず臨床症状および膿瘍の大きさが不変のため無効と判定した。症例 5, 6 は広汎子宮全摘術後の骨盤死腔炎症例で、症例 5 は手術後約 2 週を経て発熱、白血球増多および膿性分泌物を認め、症例 6 では術直後より同様の症状を認めた。症例 5 は投与翌日より臨床症状の著しい改善を認め、白血球数も 3 日後に正常化した。しかし、ドレナージを行なったため著効とせず有効と判定した。しかし、症例 6 は投与開始後も発熱、白血球増多が持続したため無効と判定した。症例 7 は子宮筋腫で腹式単純子宮全摘術後に、陰断端より淡膿血性の分泌物を認め陰断端膿瘍と診断し、本剤を 7 日間投与した。投与 3 日目より分泌物および陰断端部の圧痛が消失し有効と判定した。

7 例全体として有効 5 例、無効 2 例となり、有効率 71.4% の成績であった。

副作用および臨床検査値異常は 1 例も認められなかった。

## III 考察

新しいピリドンカルボン酸系合成抗菌剤 NY-198 は

Table 1. Summary of 7 infected patients treated with NY-198

Case No.	Age	Sex	B.W. (kg)	Diagnosis	Underlying disease	NY-198			Bacteriological findings		Clinical effect	Side-effects	
						Daily (mg × times)	Days	Total (g)	Route	Organism (MIC)			Response
1. KM	25	F	51	Puerperal endometritis	—	200 × 3	5	3.0	P. O.	Not done	Unknown	Good	—
2. YM	28	F	65	Puerperal endometritis	—	200 × 3	5	3.0	P. O.	Not done	Unknown	Good	—
3. MN	44	F	57	Bartholin's abscess	—	200 × 3	7	4.2	P. O.	<i>E. corrodens</i> (0.39)	Unknown	Good	—
4. FK	62	F	57	Bartholin's abscess	—	200 × 3	7	4.2	P. O.	—	Unknown	Poor	—
5. RA	72	F	47	Retroperitoneal dead space infection	Cancer of uterine body	200 × 3	7	4.2	P. O.	<i>E. coli</i> (0.2) <i>S. agalactiae</i> (25)	Unknown	Good	—
6. FS	43	F	56	Retroperitoneal dead space infection	Cancer of cervix	200 × 3	5	3.0	P. O.	Not done	Unknown	Poor	—
7. ST	38	F	55	Abscess of vaginal end	Myoma of uterus	200 × 3	7	4.2	P. O.	<i>K. pneumoniae</i> (0.2) <i>E. faecalis</i> (3.13)	Unknown	Good	—

広範な抗菌スペクトラムと強い抗菌活性を有し、また女性性器組織にもよく移行する<sup>1)</sup>ので、今回産婦人科領域感染症に対する有効性、安全性について検討した。検討した症例は外来の症例が多く、細菌学的な検討を十分行うことが出来なかった。細菌学的検討は3症例より5菌種が分離され、それらのMIC (10<sup>6</sup>cell/ml)はTable 1に示すように *Streptococcus agalactiae* が25 $\mu$ g/ml, *Enterococcus faecalis* が3.13 $\mu$ g/mlで他の *E. coli*, *Klebsiella pneumoniae*, *Eikenella corrodens* はいずれも0.39 $\mu$ g/ml以下であった。本剤の女性性器への移行性より考えると *S. agalactiae*, *E. faecalis* に対する抗菌作用はあまり期待できるものではない。しかし、これらの菌種が分離された症例はいずれも混合感染で、同時に分離された *E. coli*, *K. pneumoniae* のMICは本剤の組織移行濃度が十分凌駕できるものであった。

今回検討した産婦人科領域感染症7例では有効5例、無効2例となり、有効率71.4%であった。これらの検討症例は比較的軽症な例を選択したが、症例1, 2, 5, 6のような子宮内や骨盤死腔の感染に対し、経口抗菌剤

で治療できたことは本剤の良好な組織移行性と強い抗菌力を裏づけるものである。本剤の全国集計による臨床成績<sup>1)</sup>は産婦人科領域で75.2%の有効率で、今回の成績とほぼ同等であった。

細菌学的検討はできるだけ投与前後で実施するようところがけたが、疾患の特殊性により実施できなかった例もあり、今回の検討においては全例細菌学的効果不明となった。

安全性については7例の検討例で本剤に起因すると思われる副作用および臨床検査値異常は認められなかった。

以上より、本剤は産婦人科領域における中等症までの感染症の治療および感染予防に有効な経口抗菌剤と考えられた。

#### 文 献

- 1) 第35回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム (3), NY-198. 盛岡, 1987

## CLINICAL STUDY OF NY-198 IN OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

TAKAHISA HORII, HIROSHI WATANABE and KIICHIRO NODA

Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Kinki University, Osaka

We administered NY-198, a new synthetic antimicrobial agent, to 7 patients with obstetric or gynecological infection. Efficacy and safety were evaluated, and the following results were obtained.

Overall efficacy was good in 5 patients and poor in 2, the efficacy rate being 71.4%. No side-effects or abnormal laboratory findings were noted.

Our conclusion, based on these data, is that NY-198 is a safe and useful drug for treatment or chemoprophylaxis in obstetrics and gynecology.